

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第10週[3月7日~3月13日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

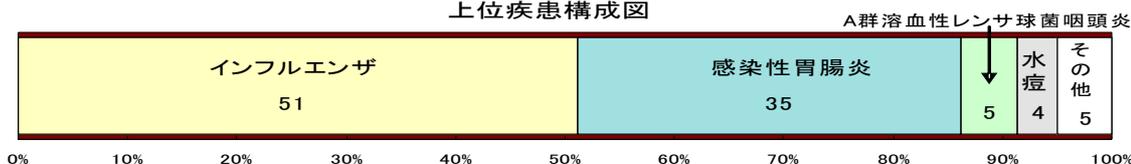
県内情報

○ 患者情報総評

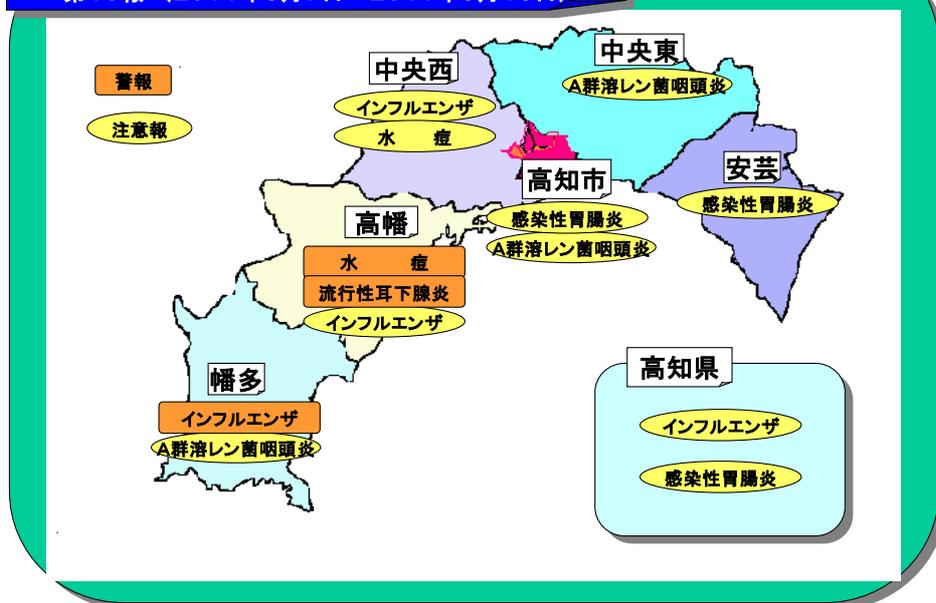
注意報発令疾患：インフルエンザ、感染性胃腸炎

- ・ 日中晴れの天気が続いたが、朝晩の冷え込みは厳しかった。
- ・ インフルエンザ（幡多：注意報→警報，中央西：注意報，高幡：注意報）は中央東を除く地域で増加したため、総数は増加に転じ注意報値を超した。
- ・ 感染性胃腸炎（高知市：注意報，安芸：注意報→注意報）は高知市，幡多，中央東で増加し，総数はさらに約1.5倍増となった。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（高知市：注意報，幡多：注意報→注意報，中央東：注意報）は総数はやや増加し，高知市，幡多，中央東で注意報値を超している。
- ・ 水痘（高幡：警報→警報，中央西：注意報）は高知市と中央西で増加したが，その他の地域で減少したため，総数も減少した。

上位疾患構成図

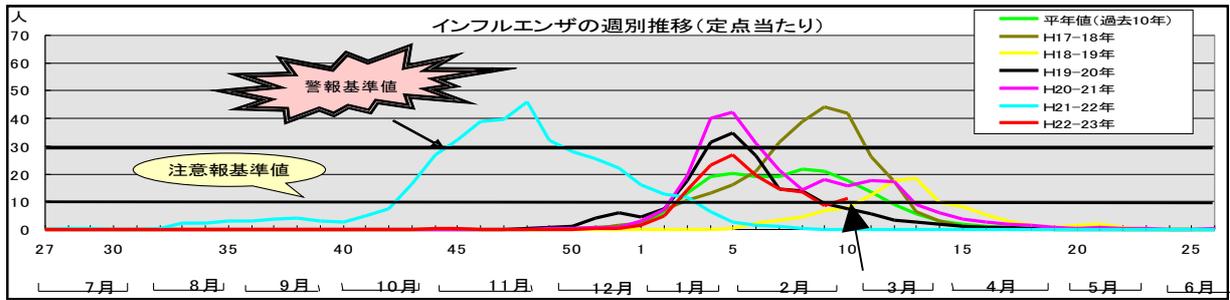


地域別感染症注意報・警報発生状況 第10報 (2011年3月7日~2011年3月13日)



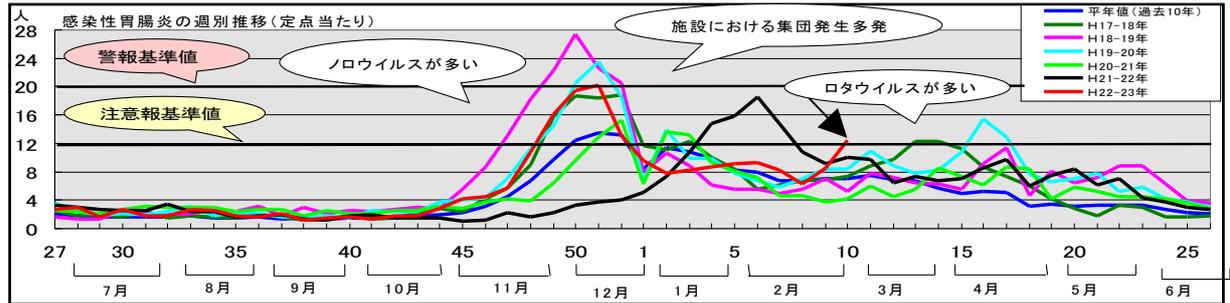
インフルエンザ：今週 11.35 (注意報値：10.00 警報値：30.00)

第5週に流行のピークとなり，その後は減少を続けていたが，今週は増加に転じた．幡多では再び警報値を超し，中央西と高幡では注意報値を超した．年齢別にみると，5～9歳が42.8%，10～14歳が30.3%，1～4歳が12.8%の順で報告が多い．定点からのコメントを集計すると，迅速キットでB型陽性が7割を超えており，このことが増加に転じた要因ではないかと考えられる．今週はInfluenza B 2件が検出されている．また，施設別発生状況では，8小学校で患者数148名となり，学級・学年閉鎖の措置が取られた．今後の推移が注目される．



感染性胃腸炎：今週 12.50 （注意報値：10.00 警報値：20.00）

総数は引き続き増加し、注意報値を超した。過去10年間の同時期と比較して、最も多い報告数となった。地域毎にみると、高知市と安芸で注意報値を超している。



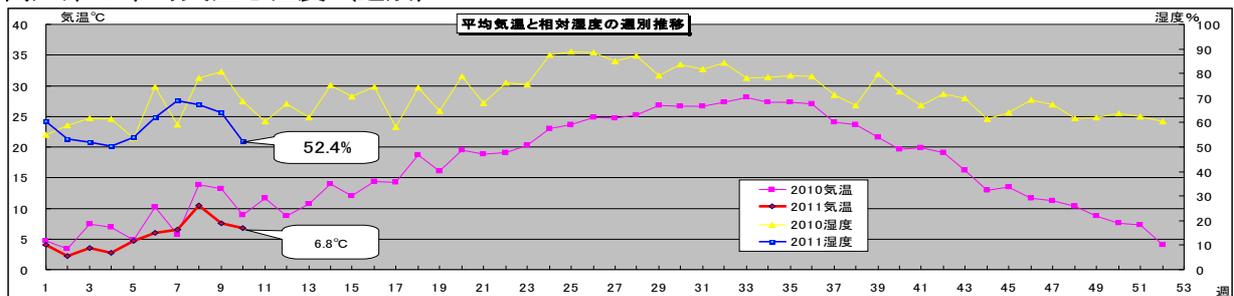
○ **検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
10	インフルエンザ	6歳 男	高知市	Influenza virus B
10	インフルエンザ	9歳 男	高知市	Influenza virus B
9	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6歳 男	高知市	Streptococcus pyogenes T-1
10	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6歳 男	高知市	Streptococcus pyogenes T-1

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 5例（81, 90歳女, 83, 86歳男）《高知市》（1歳女：無症状病原体保有者）
《中央東》（今年30例）

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

《幡多けんみん病院小児科》：インフルエンザの82例中16例はA型陽性，66例はB型陽性

《さたけ小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 3例（1歳男女）

インフルエンザの80例中19例はA型陽性，57例はB型陽性

《大井田病院小児科》：インフルエンザの31例中1例はA型陽性，30例はB型陽性

《渭南病院小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性，予防接種歴あり

《こいけクリニック》：インフルエンザの63例中24例はA型陽性，39例はB型陽性

《幡多けんみん病院内科》：インフルエンザの5例中3例はA型陽性，1例はB型陽性

《松谷内科》：インフルエンザの2例はB型陽性，予防接種歴なし

高幡：

《もりはた小児科》：インフルエンザの23例中20例はA型陽性，3例はB型陽性，予防接種歴ありは6例

帯状疱疹 1例（4歳男）

《大西病院小児科》：インフルエンザの2例中1例はA型陽性，1例はB型陽性

《須崎くろしお病院内科》：インフルエンザの7例中5例はA型陽性，2例はB型陽性

《くぼかわ病院内科》：インフルエンザの4例中1例はA型陽性，3例はB型陽性

中央西：

《石黒小児科》：インフルエンザの18例中6例はA型陽性，12例はB型陽性，予防接種歴ありは6例
ヘルペス性歯肉口内炎 1例（2歳男）

《くぼたこどもクリニック》：インフルエンザの39例中1例はA型陽性，38例はB型陽性，うち7例は予防接種歴あり A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の1例（12歳男）は須崎市

《岡本内科》：インフルエンザの5例は全てB型陽性，予防接種歴なし

《土佐市民病院内科》：インフルエンザの6例中2例はB型陽性

高知市：

《細木病院小児科》：インフルエンザの7例中2例はA型陽性，5例はB型陽性，予防接種歴ありは2例

《福井小児科内科》：インフルエンザの10例中7例はA型陽性，3例はB型陽性，予防接種歴ありは2例

《けら小児科・アレルギー科》：インフルエンザの22例中4例はA型陽性，18例はB型陽性，8例は予防接種歴あり
アデノウイルス陽性 3例（2歳男，1，5歳女）

マイコプラズマ肺炎 1例（7歳女） サルモネラ（0-9） 1例（9歳女）

《ふないキッズクリニック》：インフルエンザの15例中5例はA型陽性，10例はB型陽性，うち1例は予防接種歴あり

《高知医療センター小児科》：インフルエンザの3例はB型陽性，予防接種歴なし

《高知赤十字病院内科》：インフルエンザの1例は予防接種歴なし

《近森病院内科》：インフルエンザの9例中2例はA型陽性，3例はB型陽性，うち予防接種歴ありは1例，
なしは2例

《高知医療センター内科》：インフルエンザの3例中2例はA型陽性，1例はB型陽性，予防接種歴なし

中央東：

《高知大学医学部附属病院小児科》：感染性胃腸炎の1例はロタウイルス陽性
インフルエンザの1例はA型陽性

《吉本小児科皮膚科》：インフルエンザの4例は全てB型陽性

《あけぼの小児クリニック》：インフルエンザの5例は全てB型陽性

《野市中央病院小児科》：インフルエンザの3例は全てB型陽性，予防接種歴なし

《早明浦病院小児科》：感染性胃腸炎が増加

《いちはら内科小児科》：インフルエンザの10例中3例はA型陽性，7例はB型陽性

《野市中央病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

《嶺北中央病院内科》：インフルエンザの2例はB型陽性

安芸：

《県立安芸病院小児科》：インフルエンザの8例中3例はB型陽性，予防接種歴なし

《田野病院小児科》：インフルエンザの5例中1例はA型陽性，4例はB型陽性，予防接種歴は2例

全国情報第8週（2/21～2/27）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核352例

3類感染症：細菌性赤痢12例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎1例、エキノコックス症1例、つつが虫病1例、マラリア2例、レジオネラ症2例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎2例（B型1例、サイトメガロウイルス1例）、急性脳炎2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、後天性免疫不全症候群20例（AIDS 3例、無症候17例）、ジアルジア症1例、梅毒7例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例、風しん3例、麻しん4例

報告遅れ：パラチフス1例、E型肝炎2例、エキノコックス症1例、デング熱1例、日本脳炎1例、レジオネラ症1例、急性脳炎9例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん2例

◆インフルエンザ

2011年第5週以降減少が続いており、第8週の定点当たり報告数は15.75（報告数77,751）と前週（16.35）を下回ったが、それ以前の3週間と比較してゆるやかな減少にとどまった。都道府県別では愛知県（36.19）、山口県（36.00）、大分県（30.91）、富山県（29.21）、三重県（27.68）の順となっている。36道府県で報告数の減少がみられている一方で、大分県、山口県、岐阜県、三重県、愛知県では大きな増加がみられた。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約71万人（暫定値）となり、年齢群別では5～9歳約23万人（32.4%）、10～14歳約13万人（18.3%）、0～4歳約10万人（14.1%）、30代約7万人（9.9%）、20代約5万人（7.0%）の順であった。前週の推計受診患者数（約78万人）（暫定値）よりも減少したものの、5～9歳、10～14歳の年齢群では増加がみられた。2010年第36週以降これまでの累積の推計受診患者数は約903万人（暫定値）であり、その内訳は男性51.3%、女性48.7%、年齢群別では5～9歳約189万人（21.2%）、20代約123万人（13.8%）、10～14歳約118万人（13.3%）、30代約117万人（13.1%）、0～4歳約114万人（12.8%）、40代約78万人（8.8%）の順となっている。

2010年第36週～2011年第8週までの期間中に国内では6,734検体のインフルエンザウイルスの検出が報告されており、AH1pdm 4,434件、AH3亜型（A香港型）1,914件、B型386件とAH1pdmが最多を占めている。一方、2011年第4～8週までの直近の5週間では、総検出報告数1,959検体中AH1pdm 1,242件（63.4%）、AH3亜型516件（26.3%）、B型201件（10.3%）であり、B型の割合が増加してきている。

インフルエンザの報告数は、2011年第4週をピークとしてその後急激な減少が続いていたが、第7週から8週にかけては比較的ゆるやかな減少にとどまった。前週よりも報告数の増加がみられた11都府県のうち、比較的増加が大きかった大分県、山口県、岐阜県、三重県、愛知県では、それぞれの県の感染症情報センターからB型インフルエンザの増加が報告されている。B型インフルエンザの流行は、今後更に増加・拡大していく可能性があり、インフルエンザの発生動向にはいましばらく注意深い観察が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(9週)	高知県(10週末累計) H23/1/3~H23/3/13
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	13	34	122	69	41	266	545 (11.35)	404 (8.42)	68,327 (13.85)	6,618 (137.88)
小児科	咽頭結膜熱					1	1	2 (0.07)	6 (0.20)	1,367 (0.43)	85 (2.83)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		14	27	3	3	12	59 (1.97)	48 (1.60)	7,976 (2.53)	479 (15.97)
	感染性胃腸炎	30	72	182	31	6	54	375 (12.50)	254 (8.47)	30,811 (9.78)	2,653 (88.43)
	水痘		4	18	7	10		39 (1.30)	51 (1.70)	5,266 (1.67)	576 (19.20)
	手足口病		2	6				8 (0.27)	2 (0.07)	419 (0.13)	66 (2.20)
	伝染性紅斑			2	1	1		4 (0.13)	1 (0.03)	1,900 (0.60)	33 (1.10)
	突発性発疹		4	6	1		2	13 (0.43)	15 (0.50)	1,548 (0.49)	101 (3.37)
	百日咳									57 (0.02)	6 (0.20)
	ヘルパンギーナ			2	1			3 (0.10)	2 (0.07)	95 (0.03)	18 (0.60)
	流行性耳下腺炎			2	1	9	1	13 (0.43)	2 (0.07)	2,860 (0.91)	55 (1.83)
RSウイルス感染症		2	5				3	10 (0.33)	17 (0.57)	1,108 (0.35)	534 (17.80)
眼科	急性出血性結膜炎									7 (0.01)	(0.00)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)		300 (0.44)	9 (3.00)
基幹	細菌性髄膜炎									12 (0.03)	1 (0.14)
	無菌性髄膜炎								1 (0.14)	14 (0.03)	6 (0.86)
	マイコプラズマ肺炎								2 (0.29)	182 (0.39)	19 (2.71)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									13 (0.03)	1 (0.14)
計 (小児科定点当たり人数)		43 (18.25)	132 (17.09)	373 (30.35)	114 (28.80)	71 (25.25)	339 (47.85)	1,072 (28.89)			
前週 (小児科定点当たり人数)		47 (20.50)	131 (16.48)	254 (19.67)	77 (22.20)	46 (19.50)	250 (35.18)		805 (21.68)	122,262	11,260 (291.41)

定点当たり

第10週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(9週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ	3.25	3.09	7.63	13.80	10.25	33.25	11.35	8.42	13.85
小児科	咽頭結膜熱					0.50	0.20	0.07	0.20	0.43
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.00	2.45	1.00	1.50	2.40	1.97	1.60	2.53
	感染性胃腸炎	15.00	10.29	16.55	10.33	3.00	10.80	12.50	8.47	9.78
	水痘		0.57	1.64	2.33	5.00		1.30	1.70	1.67
	手足口病		0.29	0.55				0.27	0.07	0.13
	伝染性紅斑			0.18	0.33	0.50		0.13	0.03	0.60
	突発性発疹		0.57	0.55	0.33		0.40	0.43	0.50	0.49
	百日咳									0.02
	ヘルパンギーナ			0.18	0.33			0.10	0.07	0.03
	流行性耳下腺炎			0.18	0.33	4.50	0.20	0.43	0.07	0.91
RSウイルス感染症		0.29	0.45				0.60	0.33	0.35	
眼科	急性出血性結膜炎									0.01
	流行性角結膜炎			1.00				0.33		0.44
基幹	細菌性髄膜炎									0.03
	無菌性髄膜炎								0.14	0.03
	マイコプラズマ肺炎								0.29	0.39
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.03
計 (小児科定点当たり人数)		18.25	17.09	30.35	28.80	25.25	47.85	28.89		
前週 (小児科定点当たり人数)		20.50	16.48	19.67	22.20	19.50	35.18		21.68	

2011年週報推移(定点当たり)

